



町のあだい

今月の題字 佐々木 亜美さん (大沢小2年)

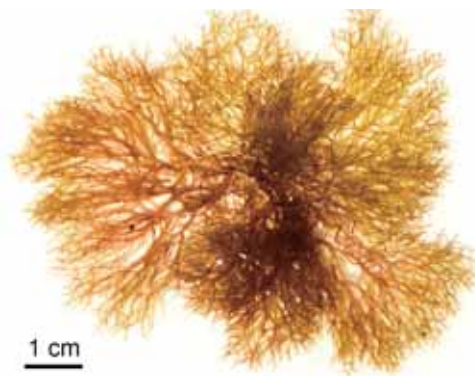


船越・田の浜地区で安全祈願祭 町内全ての復興事業が着工

昨年12月21日、浦の浜地区において「船越・田の浜地区復興事業安全祈願祭」が行われました。これにより、町内全地区の復興事業が着工したことになります。神事後、佐藤町長は「遺跡発掘調査などで時間がかかったが、ようやく着工までこぎつけた。今後もスピード感を持って進めたい」とあいさつしました。船越と田の浜地区にまたがる本事業は、総面積約13.8%と広大で、全6団地160戸分の宅地と74戸の災害公営住宅を整備。高台道路の整備により津波など災害時の避難路確保が可能になります。

岩手県で75年ぶり発見 山田沿岸から新種の海藻

山田町の海岸で新種の海藻が発見されると、東京大の研究グループが先ごろ発表しました。新種は岩手県で75年ぶりの発見で、南部藩にちなみ「ナンブワツナギソウ」と名付けられました。生殖器官の形状やDNA配列が、世界中に分布する一般的な「ワツナギソウ」と異なります。本町周辺では178種の海藻の生育が確認されており、新種は夏に船越半島の浦の浜などで繁茂。同大の鈴木雅大・特任研究員は「山田湾の穏やかな環境が海藻の生育に適し、今後も新種が見つかる可能性がある」と話しています。



新たに発見されたナンブワツナギソウ



小谷島で竪穴住居跡など出土 縄文中期の暮らししのぶ

小谷島地区で発掘された縄文時代中期（約4500年前）の集落跡「割畑沢Ⅰ遺跡」で1月11日、調査成果の現地公開が行われました。遺跡は海岸に近い山裾の緩斜面にあり、20以上の竪穴住居跡や貯蔵用の穴、屋外で火を焚いた跡などが見つかりました。住居跡は最大で直径が約10mもあり、石囲炉の形などが県南や宮城県で見られるものと類似。同地方から直接的に人が移入した可能性があるといいます。縄文早期の土器なども出土しており、太古から暮らしやすい環境だったことがしのべられます。